

令和4年度

病虫害発生予察情報 第9号

注意報第3号

北海道病虫害防除所 令和4年(2022年)6月29日

<http://www.agri.hro.or.jp/boujoshou/>

Tel:0123(89)2080・Fax:0123(89)2082

てんさいの褐斑病が早発しています！ すみやかに防除を開始しましょう！

道内各予察ほにおいて、てんさいの褐斑病の初発が平年より早く確認されています。

札幌管区气象台による6月23日発表の1ヶ月予報では向こう1ヶ月の気温は平年より高い確率が70%と予報されています。また、同日発表の2週間気温予報では、6月25日から7月8日までの気温は平年より高いと予報されています。本病は気温が高く、周期的な降雨があると急激に蔓延するとされており、今後本病の発生に好適な条件となりやすいと予想されます。

本病の防除は初発直後までに開始すると最も効果が高いことから、すみやかに防除を開始してください。また、高温多湿時には散布間隔を短くすることも検討してください。その後も小麦の収穫作業等により防除作業が先送りになって、薬剤の散布間隔が開きすぎないように計画的に防除を継続してください。

1. 発生地域 全道

2. 予想される発生時期 早

3. 予想される発生量 やや多

4. 注意報発令の根拠

- 1) 長沼町の予察ほにおける褐斑病抵抗性“弱”品種「あまいぶき」の初発は6月28日（平年：7月9日）、芽室町における抵抗性“やや強”品種「ライエン」の初発は6月28日（平年：7月5日）と平年より早かった。訓子府の「ライエン」では6月29日現在で初発を認めていない（平年：7月12日）。
- 2) 本病は高温多湿条件で多発するとされている。また、病原菌は気温が20度前後になると、越冬した罹病葉上に新しい分生子を形成し、これが飛散して第1次発生源となる。
- 3) 6月23日発表の1ヶ月予報によると、向こう1ヶ月の降水量は太平洋側、オホーツク海側で平年並、日本海側で平年並からやや多く、気温は平年より高い確率が70%と予報されており、同日発表の2週間気温予報では、6月25日から7月8日までの気温は平年より高いと予報されている。

5. 防除対策

- 1) 初発直後までに散布を開始する。
- 2) マンゼブ剤および銅剤を基幹薬剤とし、散布間隔は14日以下で、高温多湿条件となった場合は散布間隔を10日以下にする。ただし銅水和剤の残効はマンゼブ剤に比べ短いので注意する。
- 3) Q○I剤耐性菌の発生が広範囲に確認されているため、褐斑病に対する防除薬剤として、Q○I剤（アゾキシストロビン、クレソキシムメチル、トリフロキシストロビン）は使用しない。
- 4) DMI剤（ジフェノコナゾール、テブコナゾール、フェンブコナゾール、テトラコナゾール）およびカスガマイシン剤耐性菌が全道各地で発生しているため、混合剤も含めこれら系統薬剤の使用回数を可能な限り低減する。
- 5) チオファネートメチル剤に対する耐性菌の発生が道内で確認されているため、上記3) 4) も含め、薬剤の選択には特に注意する。
- 6) 本病に罹病しやすい品種が栽培されている地域では本病の発生推移に注意する。